

問1 青森県に位置し、大型掘立柱建物跡などの発見によって縄文時代の定住生活の実態を明らかにした、日本最大級の集落跡は何か。（2025年 北海道公立入試 類似）

1. 三内丸山遺跡                      2. 吉野ヶ里遺跡                      3. 登呂遺跡                      4. 岩宿遺跡

問2 縄文時代の遺跡から発見される、人間を模した土製品（土偶）に関する記述として、当時の人々の暮らしや考え方を踏まえたものとして最も適切なものはどれですか。（2024年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 自然の恵みや生命の誕生を願う、当時の人々の切実な信仰心に基づき製作された                      2. 亡くなった豪族の権威を示すため、巨大な墓の周辺に副葬品として配置された                      3. 米作りの儀式において、神の依代として用いられた青銅製の道具である                      4. 定住生活が始まったことで、集落の入り口に魔除けとして立てられた石像である

問3 縄文時代の人々が製作した「土偶」について、その特徴や目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2023年 徳島公立入試 類似）

1. 安産や豊作を祈るまじない、あるいは病気の治癒を願う儀式的な道具として用いられた。                      2. 亡くなった有力者の権威を示すために、巨大な墓の周囲に並べる装飾として作られた。                      3. 大陸から伝わった稲作技術とともに、収穫した稲の穂を摘み取るための道具として広まった。                      4. 武士が戦場に赴く際、勝利を祈願して寺社に奉納するための供え物として作られた。

問4 縄文時代の遺跡から出土する、表面に縄目の文様が施されたり、大きな眼鏡のような目を持つ「遮光器土偶」などの土製品について、その当時の使われ方として最も適切な説明を選びなさい。（2026年 千葉公立入試 類似）

1. 食物の豊穡や安産、病気の回復などを願うための、呪術的な道具として使われた。                      2. 亡くなった豪族の墓である古墳の周囲に並べ、死者の霊を慰めるために使われた。                      3. 大陸から伝わった仏教の教えに基づき、寺院の内部を飾るための仏像として使われた。                      4. 稲作が普及した社会において、収穫した米を保存するための頑丈な容器として使われた。

問5 縄文時代の遺跡である貝塚が、当時の社会や生活を研究する上で「考古学的資料」として極めて重要視されている理由として、最も適切な説明はどれですか。（2018年 香川公立入試 類似）

1. 食べた後の貝殻や骨、破損した土器などが堆積しているため、当時の人々の食生活や利用していた道具の種類を具体的に知ることができるから。                      2. 巨大な石材を用いた石室や、死者とともに埋められた豪華な副葬品が発見されることで、当時の強力な権力者の存在を証明できるから。                      3. 集落の周囲を深い溝で囲むことで、稲作をめぐる集落間の争いがあったことや、防衛のための組織的な仕組みがあったことを示すから。                      4. 炭化した米や高床倉庫の跡が発見されることで、当時の人々が計画的に食料を生産・貯蔵していた社会構造を裏付けるから。

問6 約1万年前に地球の温暖化が進んで海面が上昇し、日本列島が形成された時期の生活の様子として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 山口公立入試 類似）

1. 地面を掘り下げた竪穴住居に住み、弓矢を用いた狩猟や木の実の採集、漁を中心とした生活を営んでいた。                      2. 大陸から伝わった稲作が本格的に広まり、収穫した米を保存するために高床倉庫が作られるようになった。                      3. 各地で大規模な灌漑施設が整えられ、太陽暦を用いて農作業の時期を管理する生活が始まった。                      4. 強力な支配者が現れ、自らの権威を示すために巨大な古墳を築き、その周囲に埴輪を並べるようになった。

問7 縄文時代の人々は、竪穴住居に住み、狩りや漁、採集を行って生活していました。こうした生活の中で、食べた後の貝殻や動物の骨、役目を終えた石器や土器などが一定の場所に積み重なって形成された、当時の生活を知るための重要な考古学的資料となる遺跡を何と呼びますか。（2018年 香川公立入試 類似）

1. 貝塚                      2. 古墳                      3. 環濠集落                      4. 高地性集落

問8 縄文時代における食生活の工夫と、それに伴う住環境の変化について述べた文として正しいものはどれですか。（2016年 愛知公立入試 類似）

1. 狩猟・採集による食料確保に加え、土器で煮炊きを行うことで食べられるものが増え、竪穴住居での定住が進んだ                      2. 大陸から伝わった稲作が広まったことで食料の余剰が生まれ、それを保管するために高床倉庫が普及した                      3. 氷河期が終わり温暖になったことで大型動物が絶滅したため、移動を繰り返しながら洞窟で暮らすようになった                      4. 青銅器や鉄器などの金属器を用いて効率的に食料を生産するようになり、外敵を防ぐための環濠集落が作られた

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> <b>三内丸山遺跡</b>	青森県で発見された三内丸山遺跡は、縄文時代における最大級の集落跡であり、当時の人々が一定の場所に長期間とどまる「定住」を行っていたことを示す重要な遺跡である。佐賀県にある弥生時代の吉野ヶ里遺跡と混同されやすいが、時代背景と地域（青森）を区別して理解することが重要である。
問2	<b>答え 1</b> <b>自然の恵みや生命の誕生を願う、当時の人々の切実な信仰心に基づき製作された</b>	縄文時代の人々は狩猟や採集によって生活していたため、自然の豊かさは生存に直結する重要な要素でした。土偶が壊された状態で発見されることも多いことから、病気や怪我を土偶に移して平癒を祈ったり、食べ物の豊作や安産を祈ったりする宗教的な儀式に使われていたと考えられています。選択肢にある「古墳の周辺に配置」されるのは埴輪であり、土偶とは時代も目的も異なります。
問3	<b>答え 1</b> <b>安産や豊作を祈るまじない、あるいは病気の治癒を願う儀式の道具として用いられた。</b>	土偶は、縄文時代の人々が自然界の精霊や生命力を崇める中で生まれた道具です。女性を模した形が多いことから、安産や豊作といった「産み出す力」への願いが込められていたと考えられており、祭祀や呪術（まじない）の道具として用いられました。他の選択肢にある「有力者の墓（古墳）の周囲に並べる」ものは古墳時代の埴輪を指します。
問4	<b>答え 1</b> <b>食物の豊穡や安産、病気の回復などを願うための、呪術的な道具として使われた。</b>	縄文時代の人々は、自然界のあらゆるものに靈魂が宿ると考えるアニミズムの信仰を持っていました。土偶はその信仰に基づき、女性をかたどることで生命の誕生や食物の豊穡を祈ったり、体の一部をわざと壊すことで身代わりとして病気の治癒を祈ったりする目的で作られました。古墳時代に作られた「はにわ」や、弥生時代以降の貯蔵用土器とは、製作された時代も目的も異なります。
問5	<b>答え 1</b> <b>食べた後の貝殻や骨、破損した土器などが堆積しているため、当時の人々の食生活や利用していた道具の種類を具体的に知ることができるから。</b>	貝塚は単なる「ゴミ捨て場」ではなく、何層にもわたって当時の生活の痕跡が積み重なったタイムカプセルのような役割を果たしています。出土する骨の種類から、季節ごとの狩猟・採集活動の様子を分析することができ、縄文時代の人々が自然のサイクルに合わせて豊かに暮らしていた背景を裏付ける資料となっています。
問6	<b>答え 1</b> <b>地面を掘り下げた竪穴住居に住み、弓矢を用いた狩猟や木の実の採集、漁を中心とした生活を営んでいた。</b>	氷河時代が終わり地球が温暖化したことで、海面が上昇して日本列島が大陸から切り離されました。この時期から始まる縄文時代では、人々は定住を始め、地面を掘り下げて床とした竪穴住居に住むようになりました。自然環境の変化によって出現した中小動物を射止めるための弓矢が普及し、植物の採集や、骨角器を用いた漁など、自然の恵みを多角的に利用する生活へと変化しました。稲作や高床倉庫は後の弥生時代、古墳は古墳時代の特徴です。
問7	<b>答え 1</b> <b>貝塚</b>	縄文時代に見られるこの遺跡は、当時の人々が食べ残したカスや壊れた道具を捨てた場所が堆積してできたものです。貝殻に含まれるカルシウム成分の影響で、本来なら土中で分解されやすい魚や獣の骨が保存されやすいため、当時の食生活や自然環境を解明するための貴重な手がかりとなります。
問8	<b>答え 1</b> <b>狩猟・採集による食料確保に加え、土器で煮炊きを行うことで食べられるものが増え、竪穴住居での定住が進んだ</b>	縄文時代には、土器を使って食物を加熱調理（煮炊き）する技術が普及しました。これにより、以前は消化できなかったデンプン質の木の実なども食用にできるようになり、食生活が安定しました。その結果、人々は一箇所に留まって生活するようになり、竪穴住居による集落が形成されました。稲作や高床倉庫、金属器の使用は、その後の弥生時代の特徴です。